

経営学原理

担当教員： 後藤時政

履修年次・区分： 1年（専門一基幹）

授業のテーマ： 1900年前後のF.W.TAYLORの科学的管理論から始まる作業の標準化の発想（熟練の移転）が、規模の経済、範囲の経済、ネットワークの経済が展開する中でどのように発展し展開してきたのかを論じます。また、トヨタ自動車が世界一の企業になった理由を技術経営論（MOT）のロジックから説明したりします。

この日の授業内容： 製造企業の付加価値創造を最大化する枠組みについて



ものづくりを付加価値や利益に結びつけるには、「価値獲得」と「価値創造」の2つの視点が必要です。これまで日本の製造業では価値創造を重視してきましたが、創造した商品価値を企業の利益・付加価値に結びつける価値獲得も、重視すべき戦略となってきました。

トヨタ生産方式では7つの無駄を定義し、それらを排除するために「ジャストインタイム」（各工程が必要なものだけを、流れるように停滞なく生産する考え方）と「自動化」（異常が発生したら機械がただちに停止して、不良品を造らない）を2本柱として体系化しています。

（2016年9月取材）